

第4回 阿賀野市地方創生市民会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 平成27年10月27日(火) 午後3:00~5:00

場 所 阿賀野市役所 委員会室

出席者

【外部委員】

田中座長、上松(和)委員、島田委員、武田委員、田村委員、
羽賀委員、服部委員、百都委員、渡辺委員

【市】

田中市長、圓山総務部長、井上民生部長、土岐産業建設部長

市長政策課：中野課長、苅部参事、菅原課長補佐

社会福祉課：小菅課長

農 林 課：小林課長

商工観光課：飯野課長

2 議事概要

(1) 阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

3 主な意見(○：外部委員、●：市)

(1) 総合戦略全般

- 市民アンケートによる成果指標決定の用途は。
- アンケート集計作業完了(基準値の決定)は11月19日頃を予定している。
これを踏まえて、12月上旬を目途に目標値を決定したい。
- P36 水原駅の1日平均乗車数など、増えるとよい指標の目標値が基準値よりも減っているものがある。減り幅を食い止めるという目標だとは思いますが、成り行き値(対策を講じない場合の値)を掲載するなどの工夫が必要ではないか。
- ご指摘の指標の掲載方法については再検討する。

- 大学との包括連携について考えた方が良い。特に私立大学は地方創生に熱心に取り組んでいるので、うまく連携していけば、若者が定期的に訪れる関係ができると思う。
- 藤岡染工場と長岡造形大学が提携して手ぬぐいのデザインなどを行っているので、そのつながりで市と長岡造形大学が連携するのはどうか。
- 阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略というタイトルは固い印象があるので、例えば、キャッチフレーズ的な名称やパンフレットを作るなどの工夫が必要ではないか。
- 広報あがの 12 月号の特集で人口減少問題を取り上げることとしており、総合戦略について掲載するので、そこでは、市民がわかりやすく、親しみの持てるような内容となるよう、表現に配慮する。

(2) 総合戦略「基本目標 1 子育て環境日本一のまちづくり」

- 故郷への愛着を育むためには、本市に関わりのある偉人の存在が大きい。今年が琳派 400 年の年である。その琳派で水原出身の池田孤村という人物が、国内外でかなりの注目を集めている。

(3) 総合戦略「基本目標 3 安全・安心な暮らしの実現」

- P28 消防団体制の強化についての具体的な取組は何か。
- 今年度は、副分団長を 2 名体制にすることや消防団活動協力企業に対して入札指名の優遇を図るなどの取組を開始した。

(4) 総合戦略「基本目標 4 地域経済の活性化」

- P29 市内総生産額（農業）について、T P P の影響等でこれから農産物の値段が安くなると言われている中、60 億円（H24）を 65 億円（H31）にする目標は達成可能なのか。
- P32 市内農作物の直売・店舗販売額を 1 億 1200 万円（H26）から 4 億円（H31）にすることで目標達成したいと考えている。そのために、重点 5 品目（イチジク、玉ねぎ、カリフラワー、いちご、馬鈴薯）の作付面積を 4.6ha（H26）から 20ha（H31）に増やす、手段としては市民農園・新規就農支援園

芸ハウス整備事業等により園芸を広めていくこと、魅力ある直売所をつくることに努めたい。

- 農産物直売所の規模を含めて、現時点の構想は。
- まずは既存の直売所（16箇所）の魅力を高めていきたい。そのためには、種類と量を増やす必要があり、その取組を強化する。また現在計画中の道の駅にも大規模な直売所を予定している。
- 出品農家が株主である直売所は成功事例が多いようである。自分たちの直売所という意識が芽生える。
- P34 宿泊施設の連泊利用者数が指標となっているが、今の時代、連泊を増やすことは難しいのではないか。
- 五頭自然郷ヘルス&アグリツーリズムによって、連泊利用者数を増やしていきたいと考えている。
- P37 地域ポイントカードとは何か。
- 市内で買い物や飲食した場合の他、市が指定する健康づくりやボランティア活動等に参加した場合にポイントを取得でき、そのポイントを市内の買い物などに使える仕組みである。また、既存のスタンプ会だけではなく、市内のあらゆる事業所が加盟できる。さらには、高齢者が病院でポイントカードを利用した場合、その履歴が遠方の家族へメール配信されるサービスなど幅広い活用が期待できる。来年3月には事業を開始できるよう準備を進めているところである。
- P34 情報発信の強化について、首都圏の人から見てもらうことで、阿賀野市の良さががわかってくると思う。今話題のご当地CMなどで全国にPRできないか。今はテレビではなく、インターネットで検索できる時代である。
- 市のホームページはわかりやすいが、より親しみの持てるものにしてもらいたい。
- 情報発信の強化について、阿賀野高校の生徒の意見を聞くなど、地元の高校生と連携して事業を行うのはどうか。